



## 中学生ヒロシマ平和の旅について

伊勢原市では、次代を担う若年層の平和意識を啓発することを目的に、中学生平和の旅事業を行っています。

令和7年度は、中学生平和作文で優秀賞を受賞した8名が「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として広島へ赴き、平和学習を行いました。

## 事業内容

日時：令和7年8月5日（火）～6日（水）

場所：広島平和記念公園・広島平和記念資料館 ほか

参加者：中学生ヒロシマ平和の旅派遣団 8名 ほか

## 事業報告

### ○事前学習会・市長、教育長表敬訪問 7月31日（木）

伊勢原市役所にて、東海大学文化社会学部広報メディア学科水島教授から、広島で何を学ぶのかをテーマにした講義を受けました。その後、市長と教育長への表敬訪問を行い、激励のことばをもらいました。



## ○広島での様子

【8月5日（火）】

### 広島市到着・平和記念公園散策

広島の天気は快晴。ホテルで昼食をとり、平和記念公園内を散策しました。



### 千羽鶴奉納・爆心地見学

伊勢原市立中学校4校の仲間たちが作った2,485羽の折り鶴による千羽鶴を、原爆の子の像に奉納しました。その後、爆心地の島内科医院で原子爆弾が炸裂した上空580メートルを見上げました。



### 「第1回全国平和学習の集い」参加

被爆被害の実相と被爆体験者による講話を聞いた後、全国12都県全13団体の小中高校生と「第二次世界大戦時の地元の被害」と「平和ではない状態とその解決方法」をテーマにディスカッションを行いました。

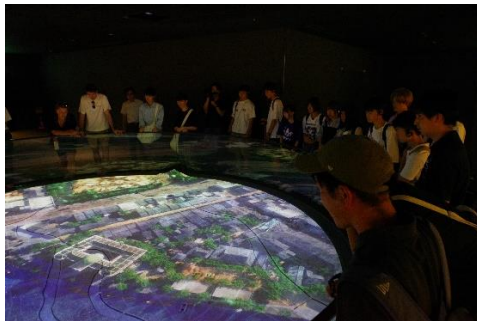


### ●派遣団の声

- 被爆者の才木さんより被爆体験を直接伺い、その臨場感と衝撃に胸を打たれました。全国の中학생と交流もでき、戦争の悲惨さや平和の大切さを深く感じる貴重な経験でした（前山）
- ディスカッションはあまりしたことがなく、他県から来た人と話すことができたので、自分が思う平和に対しての考えと比較することのきっかけとなり、いい経験になりました。ディスカッションであがった意見には共通点も見つかり、人の意見が一致するなら、行動しようとする力も大きくなるのにと感じました。（椎野）

### 平和記念資料館見学

被爆資料や遺品を見て、原爆の恐ろしさと平和の尊さを学びました。



### ●派遣団の声

- 教科書には載せることのできない程悲惨な資料が多くあり、被害の現実を学ぶことができました。周りの人々も暗い顔をしていたのが印象的で、人々への影響力が強いものだと感じました。（佐藤）
- 話しを聴くだけでは実感できないようなことが、当時の写真や遺品を見たことにより、どれだけ原爆が悲惨なできごとだったのか、心から感じることができました。（田中）

### 旧中島地区被爆遺構展示館見学

当時この地域に住んでいた人々の日常が、一発の原子爆弾により一瞬で奪われた恐ろしさを感じました。また、G7サミット記念館で、広島G7の時に各国首脳が座った椅子で記念写真を撮りました。



【8月6日（水）】

### 平和記念式典参列

伊勢原市民を代表して式典に参列し、平和を祈りました。



#### ●派遣団の声

- 外国人や幼稚園生から大人まで色々な人が来ていて、広島であった出来事が多くの一人伝わっていると感じ、これからも語り継いでいかなければいけないと思いました（三橋）
- 参列者の多さが印象に残りました。これだけ多くの人々が平和を望んでいるんだということを実感し、平和を実現することの大きな意義を感じました。（野上）

### 本川小学校平和資料館見学

爆心地から410メートルの位置にある本川小学校平和資料館では被爆した建物を見学し、子どもたちの日常が原爆により一瞬で奪われたことを肌で感じました。



#### ●派遣団の声

- 子どもたちが普通に学校生活を送っていた中で、突然原爆が落とされたことに衝撃を受けました。平和な毎日がどれほど大事かを実感しました。（高橋）
- 戦時中の為、子どもたちの娯楽が少ない中、心の支えや楽しみにもなっていた友達が死んでしまい、すごく寂しく悲しい出来事になってしまったのではと思いました。（小川）

## 基町アパート・旧陸軍施設遺構見学

戦災復興計画の一環として建設された基町アパートを見ました。その後、サッカースタジアム「エディオンピースウイング」の開発中に発掘された旧陸軍施設遺構を見学しました。



## 伊勢原へ帰宅

15時過ぎの新幹線で広島を出発し、19時30分に無事伊勢原駅に到着しました。



長旅お疲れ様でした！

## ○派遣生徒の感想 -中学生ヒロシマ平和の旅に参加して-

### 小川 光生（山王中学校）



平和記念資料館などの戦争の足跡をたどっていくと、改めてすごく残酷で、今ある環境はすごく平和でありがたいものだと感じました。そして、今世界の人々に必要なのは1人1人の事を大切に思い、自分勝手な事を考えず、相手の立場に立って考えるという3つの事が世界を平和にするカギとなると考えました。

### 前山 柚花（山王中学校）



実際に見て聞いて戦争・平和について考えることができた、非常に貴重な経験がたくさんできた旅でした。今回の旅を通して「今、不自由なく生活できている状態を当たり前だと決して思わないこと」「無差別にたくさんの命を奪う戦争はとても恐ろしいものであり、二度と行ってはいけない」ということを周りの人に伝え、平和な世界が未来でも実現することを願い続けようと心に刻みました。

### 椎野 珀（成瀬中学校）



平和の旅を通して、実際に現地に行くことはすごく大切なことなんだと分かりました。様々な物事を見て、考えさせられることがたくさんあり、良い経験となりました。僕が広島で学んだことは、被爆者の思いを知ることがこれからの自分たちに大切な目的であり、引き継いでいくということ。自分も旅に行く前、平和について考える機会はあまりなかったと思います。やっぱりはじめは平和の大切さ、人それぞれの平和について考えることが最も実現性のあることだと伝えていきたいです。

### 田中 陽菜（成瀬中学校）



実際に広島に行って写真や資料を見ないと、分からない事や感じられないことがあるんだなと感じました。そして、被爆者の方が考える平和について、自分が考える平和と照らし合わせながら深めることが、本当の平和につながることを学びました。だから広島に実際に行って、自分の目で見て実感することをぜひしてほしいということを伝えていきたいです。

### 佐藤 優真（伊勢原中学校）



今回の旅で教科書には載っていない悲惨なことが実際に行ったことで建物や資料から分かり、とても良い経験になりました。話し合いでは式典で重要視されていた思いやり、相手の立場になって考える力が身についたと思います。今後周りの人に、思いやりという小さな事が世界を平和にすることを伝えたいと思います。

### 高橋 愛美（伊勢原中学校）



平和の旅に参加し、原爆の悲惨さや平和の尊さを学びました。資料や被爆体験から、当たり前毎日の日々がどれほど貴重かを実感しました。この旅で感じたことを、家族や友人にも伝え、平和の大切さについて一緒に考えていきたいです。命の重みを忘れず、行動につなげていきたいです。

### 野上 陽生（中沢中学校）



広島での経験を通して、原子爆弾が人々に残した大きな傷を、そして、平和の尊さを強く感じました。未だ争いの絶えない現状を変えるためには、全ての人々が、戦争の悲惨さを、人々の苦しみを理解することが必要です。そのため、二度とこのような過ちを繰り返さないために、僕は、多くの人々に僕が経験したことを伝え続けていこうと思います。

### 三橋 香桜（中沢中学校）



今回の旅を通して、初めて知ったことや初めて見た写真、絵、新しい視点など新しいことをたくさん学び、改めて戦争の怖さを感じ、これからの未来を平和にしていくために身近なことからやっていくことが必要だと思いました。また、今回学んだ、日本各地の戦争の被害や平和にするために私たちがやるべきことなどを友人や家族、周りの人に伝えていきたいです。